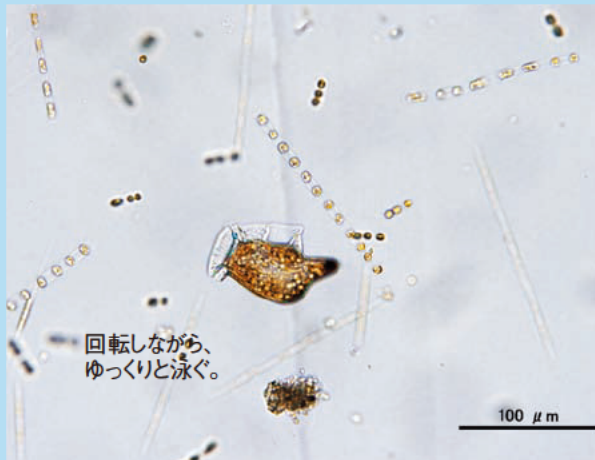


ディノフィシス コウダータ(渦鞭毛藻)

(*Dinophysis caudata*)

動画

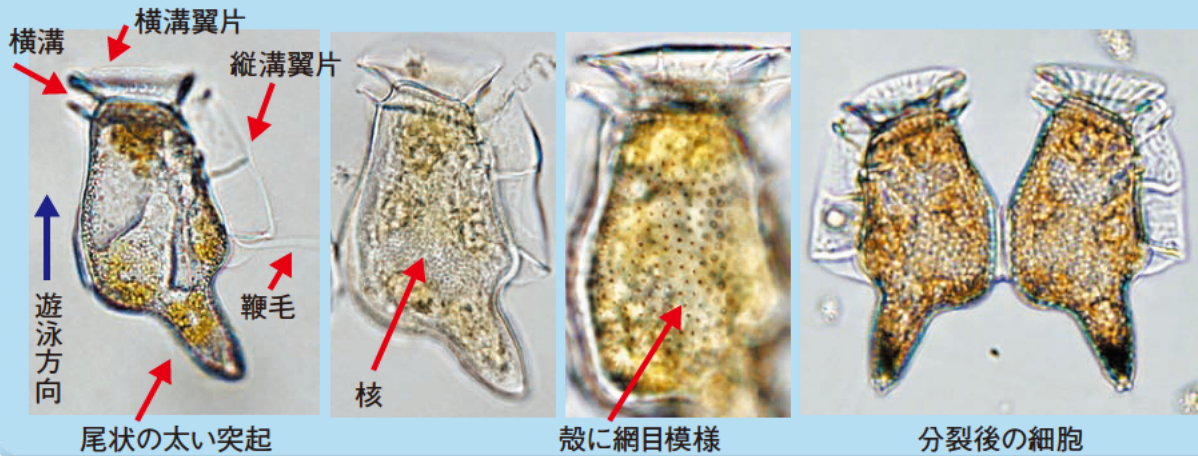


「ディノフィシス ディージェンシス」は、「ディノフィシス コウダータ」の小型細胞

ディノフィシス ディージェンシスは、ディノフィシス属の一種とされてきました。しかし、最近の研究で、ディノフィシス コウダータの培養細胞の中から、ディージェンシスに類似した小型細胞が確認されました。現在では、ディージェンシスは、コウダータの生活史の中の一つの形態で、両者は同種であると考えられています。



Dinophysis diegensis



大きさ 長さ70~170μm

形態 色は赤褐色。左右に扁平で、側面から見ると長卵形に近いが、後端に尾状の長くて太い突起があるのが特徴である。魚のヒレのような翼片(よくへん)をもつ。殻は厚く、表面に網目模様が見られる。他のディノフィシス属とは、細胞のサイズが大きい、後端に太い突起がある、などの特徴から、区別は容易である。類似種としては、ディノフィシス トリポス(*Dinophysis tripos*)が挙げられるが、トリポスは後端の突起が2本あることで区別できる。

動き 回転しながら、ゆっくりと泳ぐ。

漁業への影響：下痢性貝毒を産生し、二枚貝を毒化させる。伊勢湾で発生する本種の毒成分は、PTX2が主体であることが確認されている。PTX2は、最近になって下痢を引き起こさないことが判明し、下痢性貝毒とは区別して脂溶性貝毒と呼ぶ動きがみられている。マウス試験で二枚貝の毒量が基準値(0.05MU/g)を超えると出荷自主規制措置が講じられる。ただし、ムラサキガイについては、PTX2をマウスに毒性がない成分に代謝する能力を有するため、マウス試験で陽性反応が検出される危険性は低いと考えられている。なお、香川県では、本種による赤潮の発生に伴って、ハマチの大量へい死が発生したとの報告がある。

漁業被害：三重県沿岸では、本種による二枚貝の毒化および魚類のへい死は報告されていない。

発生海域：伊勢湾～熊野灘沿岸

発生時期：4～7月頃